

小田中聰樹教授 履歴・業績

小田中聰樹教授 履歴・業績

〔略 歴〕

- 1935年 7 月 岩手県盛岡市にて出生
- 1954年 3 月 岩手県立盛岡第一高等学校卒業
- 1958年 3 月 東京大学経済学部経済学科卒業
 - 4 月 全国販売農業協同組合連合会勤務（～1961年 4 月迄）
- 1961年 4 月 東京大学法学部学士入学
- 1962年 4 月 東京大学大学院社会科学部研究科民刑事法課程修士課程入学
 - 10月 司法試験合格
- 1964年 3 月 東京大学大学院法学政治学研究科民刑事法課程修士課程修了
 - 4 月 第18期司法修習生
- 1966年 4 月 司法修習修了
 - 東京都立大学法学部講師
- 1967年 4 月 東京都立大学法学部助教授
- 1969年 4 月 上智大学法学部非常勤講師（～1976年 3 月迄）
 - 9 月 日本大学法学部非常勤講師（～1976年 3 月迄）
- 1970年 5 月 日本刑法学会賞受賞
- 1973年 4 月 東北大学法学部非常勤講師（～1975年 3 月迄）
- 1976年 4 月 東北大学法学部助教授
 - 東京大学社会科学研究所非常勤講師（～1978年 3 月迄）
- 5 月 大阪市立大学大学院法学研究科非常勤講師
 - 東京都立大学法学部非常勤講師（～1980年 3 月迄）
- 6 月 日本刑法学会理事（～2000年 5 月迄）

- 1977年 4 月 東北大学法学部教授
- 1978年 2 月 法学博士（東京大学）
- 4 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師（～1984年 3 月迄）
- 10月 民主主義科学者協会法律部会理事（～2002年11月迄）
- 日本法社会学会理事（～1984年10月迄）
- 1980年12月 東北大学評議員（～1984年10月迄）
- 1981年10月 宮城教育大学非常勤講師
- 1982年 4 月 東北学院大学法学部・同大学院法学研究科非常勤講師
- 1983年 4 月 宮城教育大学非常勤講師
- 広島大学総合科学部非常勤講師
- 1984年 3 月 文部省在外研究員として外国出張
（ドイツ・ボン大学及びアメリカ合衆国・カリフォルニア大
学。1985年 1 月迄）
- 1985年 4 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師
- 1987年 5 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師
- 10月 日本法社会学会理事（～2002年 5 月迄）
- 1989年 7 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師
- 1990年 4 月 東北大学法学部長・同大学院法学研究科長（～1992年 3 月迄）
- 1992年12月 九州大学大学院法学研究科非常勤講師
- 1993年 4 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師
- 1995年 4 月 岩手大学人文社会科学部非常勤講師
- 1996年10月 民主主義科学者協会法律部会理事長（～2002年11月迄）
- 1999年 3 月 東北大学定年退官
- 4 月 専修大学法学部教授
- 2001年 6 月 専修大学法学研究所長（～2003年 6 月迄）
- 2006年 3 月 専修大学定年退職予定

〔主要業績目録〕

凡 例

- 1 主要論文及び著作（共編著を含む）を発表年月日順に並べた。
- 2 著作はゴシック体で記した。
- 3 判例研究，解説，時評，対談，講演，シンポジウム報告，座談会，インタビューなどを含むより詳細な業績目録は，小田中聰樹先生古稀祝賀論文集『民主主義法学・刑事法学の展望』下巻（日本評論社）の巻末に掲載。

1965年

ドイツ刑事手続の構造——1908年草案・1920年草案を中心に—— 刑法雑誌14
巻2号

1967年

大正刑事訴訟法の歴史的意義（1）——その制定過程を中心として—— 東京都立
大学法学会雑誌7巻2号

大正刑事訴訟法の歴史的意義（2）——その制定過程を中心として—— 東京都立
大学法学会雑誌8巻1号

1968年

大正刑事訴訟法の歴史的意義（3）——その制定過程を中心として—— 東京都立
大学法学会雑誌8巻2号

大正刑事訴訟法の歴史的意義（4）——その制定過程を中心として—— 東京都立
大学法学会雑誌9巻1号

福岡藩賈札事件

松代騒動——新律綱領の農民一揆への適用——

北条県血税騒動——徴兵令反対一揆——

尾去沢銅山事件——司法権独立への陣痛——

大久保利道暗殺事件——西南戦争の余波と国事犯裁判——

竹橋騒動——暴動の衝撃と峻厳な裁判——

板垣退助暗殺未遂事件——「板垣死すとも自由は死せず」——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 明治・前』（第一法規出版）

1969年

司法官弄花事件——裁判官の身分保障の確保のための抵抗——

足尾鉍毒兇徒聚衆事件——集団請願の弾圧と兇徒聚衆罪——

足尾銅山暴動事件——日露戦争後の労働運動のピークと兇徒聚衆罪——

赤旗事件——大逆事件への胎動——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 明治・後』（第一法規出版）

MSA協定

安保条約——成立過程——

以上、法律時報臨時増刊『安保条約——その批判的検討』

統一公判問題について 法学セミナー161号

伏石事件——小作争議の「法律戦」と刑事弾圧——

第1次共産党事件——日本共産党創立と治安維持法時代前夜の裁判——

以上、我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 大正』（第一法規出版）

1970年

刑事司法の動向と「法廷闘争」 判例タイムズ240号

メーデー事件判決の問題点——騒擾罪認定プロセスの検討を中心に—— ジュリスト446号

3・15、4・16事件——治安維持法裁判と法廷闘争—— 我妻栄ほか編『日本政治裁判史録 昭和・前』（第一法規出版）

日米共同声明 第五項〔安保条約の実質的改定〕 野村平爾編『日米共同声明と安保沖縄問題』（日本評論社）

戦後司法の展開と問題状況 法学セミナー171号

刑事訴訟法の歴史的分析（1）——大正刑事訴訟法を素材として—— 刑法雑誌

17巻1 = 2号

過剰警備と人権 法律時報臨時増刊『治安と人権』

刑事手続の動向と最高裁 法律時報42巻7号

権力機構再編成のための司法反動とそのイデオロギー批判 労働法律旬報743 = 744号

別件逮捕・勾留問題にみる人身の自由と令状主義 法律時報42巻12号

松尾浩也「検察と司法」書評 法律時報42巻13号

人民戦線事件——反戦・反ファシズム勢力への弾圧—— 我妻栄ほか編『日本政治裁判史録昭和・後』（第一法規出版）

1971年

公害犯罪処罰法 法律時報43号4号

わが国における刑事手続の史的展開 法社会学会編『現代法社会学の諸問題』（有斐閣）

裁判官の市民的自由について ジュリスト480号

権力機構再編への「司法政策」——その本質とイデオロギー—— 労働法律旬報781号

現代日本の司法反動 現代と思想5号

1972年

戦後刑事手続政策の展開・序説 法律時報44巻1号

法廷の秩序維持 井戸田侃編『判例演習講座・刑事訴訟法』（世界思想社）

司法問題の現局面と平賀書簡事件の今日的意味 法律時報44巻9号

戦後刑事司法の展開と刑事司法論——刑事裁判の目的と機能をめぐる問題史的考察 現代法ジャーナル1972年8月号

刑事司法論の基礎視点——田宮教授の著作を読んで—— 書評 法律時報44巻13号

刑事手続純化論などについて 社会科学の方法42号

1973年

参与判事補制度の本質と問題点——ふたたび問われる司法行政のあり方——法
学セミナー205号

刑事執行の実態，

検察官

以上，川島武宜編『法社会学講座 第八卷・社会と法2』（岩波書店）

公害と刑罰 窪田隼人ほか編『現代の企業災害』（有斐閣）

刑事訴訟法379条～393条 コンメンタール 別冊法学セミナー『基本法コンメ
ンタール刑事訴訟法』

辰野事件第二審判決について 判例タイムズ287号

長期裁判問題への一考察 法律時報45巻5号

島田信義『労働裁判と裁判官』書評 民商法雑誌68巻1号

準起訴手続とドイツ起訴強制手続の立法過程について（一） 法律時報45巻9号

訴訟条件を欠く訴因に変更できるか 法学教室＜第2期＞2号

フェーメ殺人事件 法学セミナー215号

刑事司法論の展開と今日的課題 法学セミナー215号

再審の基本性格と手続構造 法と民主主義82号

現代司法の構造と思想（日本評論社）

1974年

司法反動と司法合理化 法律時報46巻4号

治安と人権〔吉川経夫氏と共著〕（法律文化社）

上田誠吉『国家の暴力と人民の権利』書評 法の科学2号

いわゆる「公害罪」について 法律時報46巻6号

治安立法と労働法——戦後労働運動刑事弾圧史—— 沼田稲次郎先生還暦記
念・上巻『現代法と労働法学の課題』（総合労働研究所）

公訴提起の条件 熊谷弘ほか編『公判法大系Ⅰ』（日本評論社）

1975年

刑法改正入門〔沼田稲次郎・上条貞夫氏と共編著〕（労働旬報社）

横川敏雄『裁判と裁判官』書評 民商法雑誌71巻4号

刑法改正に対する批判の視点 自由と正義26巻3号

刑事裁判制度の改革 東京大学社会科学研究所編『戦後改革4・司法改革』（東京大学出版会）

再審と人権——白鳥事件最高裁第1小法廷昭和50・5・20決定を中心に——法学セミナー246号

少年法改正にみる治安と教育の論理 季刊教育法18号

1976年

刑事訴訟法の歴史的分析（日本評論社）

労働公安・刑事事件と最高裁判所——村上コートの関係判例の傾向と司法行政の実態——労働法律旬報908号

刑事訴訟法372条～378条 コンメンタール 『判例コンメンタール刑事訴訟法』（三省堂）

1977年

治安維持法の法律的変遷 歴史評論322号

現代刑事訴訟法論（勁草書房）

鬼頭問題にみる司法反動の一局面（覚書） 法と民主主義118号

控訴審における事実取調——刑訴法393条1項の解釈試論 平場安治博士還暦祝賀『現代の刑事法学（下）』（有斐閣）

横山晃一郎『憲法と刑事訴訟法の交錯』書評 法律時報49巻12号

司法行政の軌跡と実態——人事行政と裁判官の身分保障を中心に——法学セミナー増刊『最高裁判所』

再審理由拡大の展望と人権 日本弁護士連合会編『再審』（日本評論社）

1978年

刑訴「改正」の基本的人權 法と民主主義125号

刑訴改正問題の背景と本質——『訴訟促進』政策との関連で—— 法律時報50巻
3号

昭和前期の治安政策と法——治安維持法の法律的変遷とその運用の概観—— 安

藤良雄先生還暦記念『日本資本主義 展開と論理』（東京大学出版会）

誤判問題史素描——戦前日本の公正裁判問題と再審制度 ジュリスト660号

裁判と国民の権利（文献選集日本国憲法11巻）〔利谷信義氏と共編，冒頭解説部
分執筆〕（三省堂）

「検察の民主化」と検察審査会 法律時報50巻9号

松岡正章『量刑手続法序説』書評 法の科学6号

いわゆる弁護人抜き裁判法案について 歴史学研究461号

公的扶助・福祉と刑法——生活保護費不正受給処罰を中心に—— 小川政亮編
『扶助と福祉の法学』（一粒社）

汚職事件史・概観——戦前を中心に—— ジュリスト676号

治安維持法——1928年改正の推進者と反対者—— 法律時報臨時増刊『昭和の
法と法学』

1979年

弁護士法改正問題の背景と本質 法律時報51巻3号

弁護人ぬき裁判と基本的人權 法と民主主義134号

解釈論と立法論

予審を廃止したことの評価

以上，ジュリスト『刑事訴訟法の争点』

戦前の法律家——そのイデオロギー的操作の問題を中心に—— ジュリスト702号

民主主義司法論序説——「国民主権と司法」を中心に—— 鴨良弼先生古稀祝賀
論集『刑事裁判の理論』（日本評論社）

木田純一『戦後民主主義と刑法学』書評 法律時報51巻12号

戦時刑事手続の特質——その形成と展開—— 東京大学社会科学研究所編『戦

後日本の法体制』（東京大学出版会）

刑事弾圧 沼田稲次郎編『労働法辞典』（労働旬報社）

1980年

司法権の独立について——「民主主義司法論序説」の一環として—— 判例タイムズ399号

戦時刑事手続の準備過程と形成過程（前期）（1） 法学43巻4号

伝統的裁判官像か民主的裁判官像か——樋口陽一著『比較のなかの日本国憲法』に対する若干の疑問—— 社会科学の方法131号

戦時刑事手続の準備過程と形成過程（前期）（2・完） 法学44巻1号

瀧川幸辰の経歴・業績と刑事手続論 法律時報52巻6号

再審 佐伯千仞編『刑事訴訟法の考え方』（有斐閣）

80年代の司法反動とその役割 労働法律旬報1001号

80年代司法と民主主義——80年代司法政策の基本的動向と民主主義司法の理論—— 法学セミナー306号

刑事被告人の「弁護人を依頼する権利」 清宮四郎ほか編『新版憲法演習2（人権Ⅱ・統治機構Ⅰ）』（有斐閣）

80年代治安政策と警察 法学セミナー増刊『現代の警察』

裁判と国民——裁判の公開を中心に—— 法律時報52巻10号

捜査の構造 別冊判例タイムズ『刑事訴訟法の理論と実務』

再審法制の沿革と問題状況〔大出良知氏と共同執筆〕 鴨良弼編『刑事再審の研究』（成文堂）

三谷太郎「日本における陪審制成立の政治史的意味——司法部と政党との権力関係の展開——（1）～（3）完」 書評 法制史研究30号

1981年

瀧川幸辰の刑事手続論（補遺） 法律時報53巻2号

誤判事件と法律家の責任（1）——徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー313号

最近の改憲の動きと統治政策の分析（その１） 労働法律旬報1015=1016号
誤判事件と法律家の責任（２）—— 徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー314号

最近の改憲の動きと統治政策の分析（その２） 労働法律旬報1019号
誤判事件と法律家の責任（３）—— 徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー315号

続現代司法の構造と思想（日本評論社）

誤判事件と法律家の責任（４）—— 徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー316号

違法収集の証拠

抗告

以上、鴨良弼編『新版刑事訴訟法講義』（青林書院新社）

誤判事件と法律家の責任（５）—— 徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー317号

最近の改憲の動きと統治政策の分析（その３） 労働法律旬報1023号

検察の民主化と検察官の良心 法学セミナー増刊『現代の検察』

誤判事件と法律家の責任（６・完）—— 徳島事件と免田事件を中心に—— 法学セミナー318号

80年代の統治政策と警察 月刊憲法運動99号

家永三郎『裁判批判』（第２版）解題 家永三郎『裁判批判』（日本評論社）

1982年

公訴抑制の理論と展望—— 最近の最高裁２判例の検討を中心に—— 法学セミナー323号

被疑者取調権の沿革史的考察 自由と正義33巻１号

誤判救済と再審（日本評論社）

訴因の特定について Law School 43号

接見指定について Law School 44号

治安政策と法の展開過程（法律文化社）

起訴前勾留と起訴後勾留との関係について Law School 45号

留置施設法案について (1) Law School 46号

留置施設法案について (2) Law School 47号

留置施設法案について (3) Law School 48号

刑事手続と生活の法律相談 (市民生活の法律相談 6 卷) [宮本康昭氏と共編著]
(三省堂)

「司法反動」の総過程と裁判官像 (1) 法律時報54巻 9 号

刑法と社会保障 沼田稲次郎ほか編『現代法と社会保障』(総合労働研究所)

「司法反動」の総過程と裁判官像 (2・完) 法律時報54巻10号

違法捜査と公訴の効力について Law School 49号

公訴提起による公訴時効停止の客観的範囲について Law School 50号

公正な裁判を受ける権利についての覚書 松井康浩弁護士還暦記念『現代司法
の課題』(勁草書房)

公訴事実の単一性について Law School 51号

1983年

控訴審の事後審査審的構造について Law School 52号

人身の自由と代用監獄制度——留置施設法案の理論的問題点—— 法律時報55
巻 2 号

刑事法制再編の現局面の背景と本質 自由と正義34巻 2 号

法務大臣の指揮権について Law School 53号

再審開始決定の確定と確定有罪判決の効力(執行力)との関係について Law
School 54号

冤罪と再審をめぐる最近の問題状況 法学セミナー338号

共犯者の自白と補強法則について Law School 55号

戦時刑事手続のイデオロギー 井上正治博士還暦祝賀『刑事法学の諸相(下)』
(有斐閣)

人身の自由の一局面——代用監獄問題の一考察—— 小林孝輔教授還暦記念論
集『現代法の諸領域と憲法理念』(学陽書房)

冤罪問題の構造と歴史——冤罪と民主主義 法学セミナー増刊『日本の冤罪』
 メーカー事件裁判闘争史編纂委員会『メーカー事件裁判闘争史』書評 法律時
 報55巻8号

刑事訴訟と人権の理論（成文堂）

国民のための司法〔風早八十二，浦田賢治，橋本紀徳，新井章氏と共著〕

1984年

再審の二，三の問題について 法学47巻5号

裁判官論の課題 斎藤忠昭弁護士追悼『人権と司法』（勁草書房）

1985年

刑事訴訟法の歴史的分析の方法と意義 『団藤重光博士古稀祝賀論文集 第四
 巻』（有斐閣）

荻野富士夫『特高警察体制史——社会運動抑圧取締の構造と実態』書評 法の
 科学13号

1986年

刑事訴訟法の史的構造（有斐閣）

捜査実務の現状と弁護活動の充実 法律時報58巻10号

国家秘密法修正案と言論の自由（上） 新聞研究422号

国家秘密法と言論・報道機関の任務 法学セミナー増刊『マスメディアの現在』

国家秘密法修正案と言論の自由（下） 新聞研究423号

国防保安法の制定過程 広中俊雄教授還暦記念論集『法と法過程』（創文社）

「スパイ防止・処罰」の発想を捨てよ 法律時報58巻13号

1987年

ゼミナール刑事訴訟法（上）——争点編（有斐閣）

1988年

国防保安法の運用過程 小野慶二判事退官記念論文集『刑事裁判の現代的展開』

(勁草書房)

刑事・留置両施設法案評価の基礎的視点——代用監獄問題を中心に—— 法律時報60巻3号

ゼミナール刑事訴訟法(下)——演習編 (有斐閣)

小野先生と「歴史的評価」 平野龍一編『小野先生と刑事判例研究会』(有斐閣)

国防保安法の特質と機能 法学52巻2号

裁判公開原則と法廷メモ訴訟——権利としてのメモの自由をなぜ認めなければならないのか 法学セミナー407号

1989年

警察国家再現の防止のために ジュリスト930号〔刑事訴訟法40年の軌跡と展望〕

刑事裁判の現代的課題 黒木三郎編『現代法社会学』(青林書院)

秩序維持の法構造 渡辺洋三編『現代日本の法構造』(法律文化社)

私たちの松川事件〔松川事件無罪確定25周年記念出版委員会名で小田嶋森良、佐藤正明氏と共編〕(昭和出版)

1990年

裁判官論の現代的課題 石松竹雄判事退官記念論文集『刑事裁判の復興』(勁草書房)

1991年

戦後不況と関東大震災——第45回帝国議会～第48回帝国議会—— 内田健三ほか編『日本議会史録・2』(第一法規出版)

刑訴改革論議の基礎的視点——「精密司法」論の検討を手掛かりとして——『平野龍一先生古稀祝賀論文集 下巻』(有斐閣)

裁判の正当性に関する覚書——その主体的構成要素の検討を中心に—— 莊子邦雄先生古稀祝賀『刑事法の思想と理論』(第一法規出版)

被疑者取調べの歴史的考察（戦前） 井戸田侃編『総合研究＝被疑者取調べ』（日本評論社）

現行刑事訴訟法の制定の意義 ジュリスト『刑事訴訟法の争点（新版）』

1993年

ドイツにおける最近の法曹養成制度改革の動きとその特徴 ジュリスト1018号
法曹養成について（上）——最近の司法試験改革を契機とする一考察—— 法学56巻6号

冤罪はこうして作られる（講談社）

刑事訴訟法379条～393条 コンメンタール 別冊法学セミナー『基本法コンメンタール刑事訴訟法（第三版）』

1994年

刑法理論史の総合的研究〔吉川経夫，内藤謙，三井誠氏と共編著〕（日本評論社）

刑事訴訟理論の歴史的概観 吉川経夫ほか編『刑法理論史の総合的研究』（日本評論社）

刑訴法の理論状況の一分析（覚書）——田宮裕『刑事訴訟法』の検討を中心に——吉川経夫先生古稀祝賀論文集『刑事法学の歴史と課題』（法律文化社）

刑事再審研究の20年とこれからの課題 法律時報66巻8号

刑事手続改革の課題 内藤謙先生古稀祝賀『刑事法学の現代的状況』（有斐閣）

1995年

高橋清一『無罪弁論集1・2』書評 法律時報67巻4号

菊山正明『明治国家の形成と司法制度』書評 歴史学研究672号

日本の裁判（渡辺洋三，江藤价泰氏と共著）（岩波書店）

現代司法と刑事訴訟の改革課題（日本評論社）

刑訴法372条～378条 コンメンタール〔富田真氏補筆〕『新判例コンメンタール刑事訴訟法5』（三省堂）

1996年

法曹養成と司法試験制度改革——改革協意見書の批判的検討—— 法律時報68
巻3号

誤判救済の課題と責任（上）——日産サニー事件を素材として—— 法学59巻
5号

破防法成立の歴史 奥平康弘編『破防法でなにが悪い!?』（日本評論社）

現代弁護士論の陥穽——戦後最大の岐路に直面して—— 自由と正義47巻11号

1997年

盗聴立法の違憲性——事務局参考試案の検討—— 法律時報69巻3号

五十嵐二葉『刑事訴訟法を实践する』書評 法律時報69巻4号

刑事手続改革と刑事弁護の課題——日弁連「アクション・プログラム」を契機
として—— 自由と正義48巻3号

破防法発動へのプロローグ——オウム弁明手続開始に至るプロセスの観察——
『中山研一先生古稀祝賀論文集第4巻 刑法の諸相』（成文堂）

盗聴立法批判〔村井敏邦，川崎英明，白取祐司氏と共著〕（日本評論社）

刑事弁護コンメンタール1 刑事訴訟法〔大出良知，川崎英明氏と共編著〕
（現代人文社）

1998年

「盗聴」要綱骨子の審議過程の分析 『松尾浩也先生古稀祝賀論文集下巻』（有
斐閣）

民主主義刑事法学の基本的課題と方法——「現代的」治安法との対抗状況を中
心に—— 竹沢哲夫先生古稀祝賀論文集『誤判の防止と救済』（現代人文社）

自由のない日本の裁判官〔木佐茂男，川崎英明，高見沢昭治と共編著〕（日本
評論社）

裁判官の市民的自由 小田中聰樹ほか編『自由のない日本の裁判官』（日本評論
社）

少年審判への検察官関与論批判 季刊刑事弁護16号

司法改革論の諸相と民主司法の理念 法律時報70巻12号

1999年

五十年振りの手紙 随想集 (現代人文社)

人身の自由の存在構造 (信山社)

庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集『民衆司法と刑事法学』〔秋山賢三ほか三氏と共編〕 (現代人文社)

少年審判への検察官関与論再批判 庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集『民衆司法と刑事法学』 (現代人文社)

司法制度改革論議の基本的視点と方法論 (覚書) 井戸田侃先生古稀祝賀論文集『転換期の刑事法学』 (現代人文社)

現代治安政策と盗聴法 (上) (下) 法律時報71巻12, 13号

2000年

司法制度改革審議会の思想と論理——「論点整理」についての批判的考察——
梶田英雄判事・守屋克彦判事退官記念論文集『刑事・少年司法の再生』 (現代人文社)

誤判救済と刑事司法の課題 渡部保先生古稀記念〔鈴木茂嗣ほか三氏と共編〕
(日本評論社)

司法制度改革審議会「中間報告」の評価基準 渡部保夫先生古稀記念『誤判救済と刑事司法の課題』 (日本評論社)

2001年

学者の姿勢 法律時報73巻1号

人権擁護か公益性か——司法制度改革審議会の弁護士像—— 専修大学今村研究室報35号

中間報告の全体像——司法制度改革審議会の思想と論理の発現・貫徹状況——
法の科学30号『だれのための「司法改革」か』

地方自治・司法改革〔天川晃, 富田真氏と共著〕 (小学館)

司法改革の思想と論理（信山社）

盗聴法の総合的研究〔奥平康弘氏と共同監修〕（日本評論社）

現代治安政策と盗聴法 奥平康弘ほか監修『盗聴法の総合的研究』（日本評論社）

刑事法制の変動と憲法 法律時報73巻6号

えん罪入門〔佐野洋ほか三氏と共編〕（日本評論社）

最高裁名張決定に関する批判的検討 『光藤景皎先生古稀祝賀論文集下巻』（成文堂）

2002年

歴史に学び希望を語る 第54回日本保育学会大会記念講演冊子 日本保育学会
横浜事件第三次再審請求における刑事訴訟法上の新論点の検討 法律時報74巻6号

2003年

最高裁名張事件第5次再審請求特別抗告棄却決定に関する法律的意見書 法律時報75巻3号

刑事再審に於ける限定的再評価説批判 専修大学法学研究所紀要28号『刑事法の諸問題』Ⅵ

市民の安全要求と人間的・社会的連帯の回復 田島泰彦ほか編『住基ネットと監視社会』（日本評論社）

横浜事件再審開始決定の事理と法理 能勢弘之先生追悼論集『激動期の刑事法学』（信山社）

刑事法制の変動と憲法的近代刑事原則 井上正治先生追悼論集『刑事実体法と裁判手続』（九州大学出版会）

2004年

阿部純二先生古稀祝賀論文集『刑事法学の現代的課題』（岡本勝ほか二氏と共編）（第一法規）

誤判救済の課題と責任（完） 阿部純二先生古稀記念論文集『刑事法学の現代的課題』（第一法規）

構造改革批判と法の視点（丹宗暁信氏と共編）（花伝社）

裁判員制度の批判的考察 丹宗暁信・小田中聰樹編『構造改革と法の視点』（花伝社）

司法改革の「教訓」 季刊刑事弁護40号

平野刑事訴訟法学の軌跡と真髓 法律時報76巻12号

「司法改革を総括する」とはどういうことか 法と民主主義392号

希望としての憲法（花伝社）

平野先生の学問と業績〔座談会〕ジュリスト1281号

2005年～

横浜事件再審の現代史的意義と再審公判のあり方 法律時報77巻8号

検察官の起訴独占，裁量権，独立性 菊田幸一先生古稀記念論文集『社会の中の刑事司法と犯罪者（課題）』（日本評論社）（近刊）

司法改革はなにを狙いとしたのか，それを実現したのか——司法改革の歴史的位相と本質—— 法の科学36号『司法改革の総決算——誰のための司法改革か——』（近刊）

刑事訴訟法の変動と憲法的思考（日本評論社）（近刊）

法と権力 1970—2005（現代人文社）（近刊）